

# 質 問 回 答 書

工事名 鈴鹿工業高専機械工学科棟改修その他工事

鈴鹿工業高等専門学校				
事務部長	総務課長	課長補佐	係長	担当
				

設計図書等に対する質問及び回答

工事名 鈴鹿工業高専機械工学科棟改修その他工事

番号	図面番号	質問内容	回 答
1	共-2	現場事務所及び休憩所の場所の指定はありますか。御指示ください。	現場説明書による。 (仮囲い内とする。)
2	共-2	監理事務所は必要でしょうか。御指示下さい。	現場説明書による。(設けない。)
3	A-13 A-53	矩計図にてコンクリート製蒸気ピットは撤去し、化粧玉砂利(別途工事)となっていますが、詳細図にてコンクリート製蒸気ピット側面塞ぎとありますが、場所が不明ですので、御指示下さい。	A-03:改修前1階平面図, A-52:改修前後外構図による。
4	特-2	防水型複層塗材 E の特記について、工法と触媒の仕様を御指示下さい。	吹付け工法、水系とする。
5	A-1	天井仕上げ材 EP-T について、材料指定はありますか。御指示下さい。	特になし。
6	A-1	外部鉄部 DP 塗装について、1 級から 3 級(1 級フッ素系・2 級シリコン系・3 級ポリウレタン系)の種別を御指示下さい。	上塗り塗料は、1 級とする。
7	共-2	南面材料工学科既設工事エリアとの境に仮囲いが明記されていませんが、既設工事エリアの仮囲い併用と考えてよろしいでしょうか。	現場説明書による。 9 月以降はその部分に仮囲いを設置すること。
8	共-2	工事仮設用電源及び水道の分岐位置の指定はありますか。また、電気水道の使用料についての記載が不明です。有償でしょうか無償でしょうか。御指示下さい。	現場説明書による。 有償
9	共-2	道路からの進入口及び現場出入口部分における交通誘導員の配置は必要でしょうか。御指示下さい。	常駐の必要はなし。
10	特-2	軽量鉄骨下地開口補強の範囲を御指示下さい。	空調設備: 1000×1000 1F 21 か所 2F 46 か所 700×700 1F 19 か所 2F 35 か所 照明器具: なし A-40、A-41 及び壁開口補強とする。
11	A-4	第 4 実験室の人研作業台のクラック補修の範囲を御指示下さい。	全面とする。

数量書に対する質問及び回答

工事名 鈴鹿工業高専機械工学科棟改修その他工事

番号	図面番号	質疑内容	回 答
1	A-01 A-02	数量書に木製幅木 122mm 撤去とありますが、仕上げ表等に木製幅木が見当たりません。御指示下さい。	1階第10教員研究室西、東面及びA-3 1, A-3 2の木製間仕切壁部分である。

工事名 鈴鹿工業高専機械工学科棟改修その他工事

追加・変更事項			
番号	図面番号	変更前	変更後
1	特-02	外部足場の養生シート (災害防止)	東、西、北面は防音シートとする。
2	A-01 A-13	1~2 階外部廊下及び外部階段防滑塩ビシート張	1~3 階外部廊下及び外部階段防滑塩ビシート張取止めとする。
3	A-01	館内案内板	別途工事とする。
4	A-09 A-10 A-13	外廊下手摺取替え	2 階一部のみとする。その他は既設の上DP塗とする。
5	A-52	外構工事 (別途工事)	コンクリート舗装 t=100+アスファルト舗装 撤去 (592 m <sup>2</sup> ) 及びアスファルト舗装 新設 (556 m <sup>2</sup> ) を本工事とする。

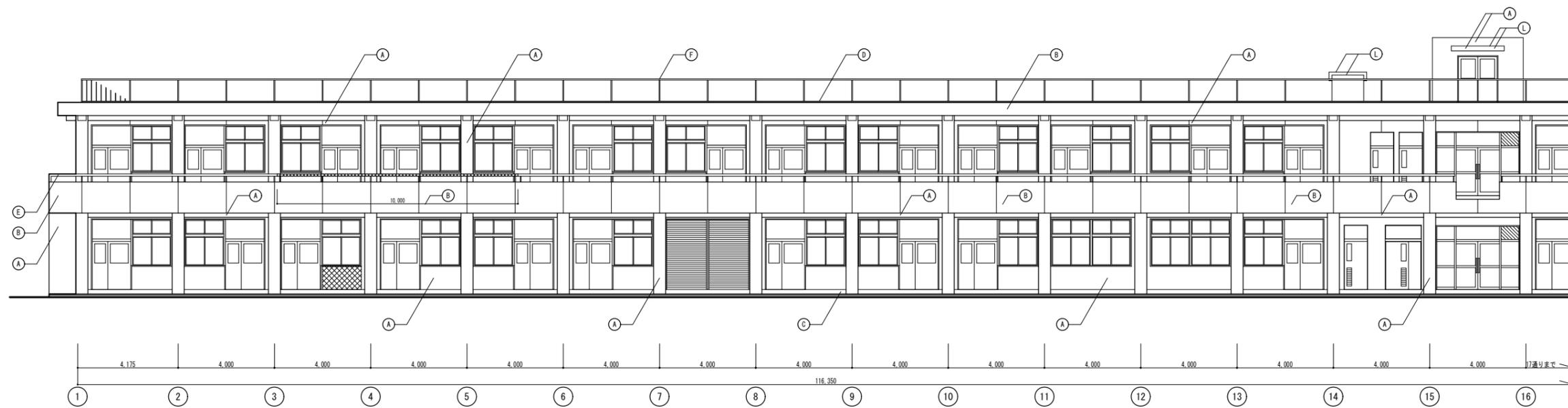
区 分	項 目		電 気	機 械	備 考
	名 称	概 要			
工事区分	コンクリート穴あけ	鉄骨工事修繕スリーブ入れ	○		退出し共
	"	梁、壁本製型入れ	○		退出し、補修除く
	"	梁、壁スリーブ入れ	○	○	ポイド等
	"	床スラブ本製型入れ	○		退出し、補修除く
	"	床スリーブ入れ	○	○	ポイド等
	同上開口部補修	鉄筋切断及び補強筋入れ	○		
	既設コンクリート 床・壁 はつり穴あけ		○	○	退出し共
	既設コンクリート 床溝はつり・補修	鉄筋切断及び補強筋入れ	○	○	退出し共
	既設器具・配管・ダクト除去後の穴埋め		○	○	埋戻しが必要なら埋戻し
	天井改め口	改め口取付及び、開口部補修	○		ポイド切込み、退出し共
	天井開口を必要としないポイド等の穴埋め		○	○	ポイド等
	経年劣化下地開口部補修	天井及び壁、ポイド切開	○		照明器具、空調取出口 給排水ガリ等
	経年劣化下地開口部補修	電気関係開口部		○	
	経年劣化下地開口部補修	機械設備関係開口部		○	
	壁等重量物の下地補修	露出形器具取付用	○		
	床下改め口	改め口取付及び、開口部補修	○		退出し共
	流し台	オールステンレス製	○	○	水切り板、開け穴共
	"	上記を敷く流し台	○		水切り板、開け穴共
	"	陶器製		○	
	水栓、電気温水器			○	
	ライニングバック			○	
	ルーフドレン			○	
	立てどい	防漏工事共	○		
	雨水排水管	第1階から排水幹線までの配管	○		第1階まで配管
	"	幹線の配管	○		第1階を含む
生活排水、実験排水	建物及び第1階までの配管	○	○		
"	第1階から排水幹線までの配管	○	○		
"	幹線の配管	○			
アスファルト舗装等 撤去		○	○		
アスファルト舗装等 復旧		○	○		
機械基礎		○			
室外機用鉄骨架台		○			
機械用アンカーボルト型挿入れ	ボイラ、冷凍機等機械設備関係	○		退出し共	
機械用アンカーボルト型挿入れ	自家発電機その他電気関係機器	○		退出し共	
屋外貯油槽	地下式		○		
共同溝	多床コンクリート共	○			
建物、共同溝接続トレンチ		○			
同上接続部止水板		○			
各種槽類	コンクリート製	○			
"	SS、FPP製		○		
換気扇取付			○	天井取付・全熱交換器を含む フード共	
同上用材、取付等	木製、アルミ製、鉄製	○			
同上用配管配線			○	引付、配線は機械設備	
外壁取付ガラリ	給排水用	○		バンドキャップは機械	
内壁取付ガラリ		○		透光ガラリ共	
ガラリへの給排水ダクト接続			○		
道路側溝用排水	し型・U型と管弁	○			
制御盤	制御盤以降の配管、配線共		○	接地共	
同上接続（一次側）	制御盤主制御盤までの配管配線		○		
屋内消火栓	消火ポンプ、制御盤		○		
屋内消火栓起動リレー			○		
同上表示灯及び起動装置			○		
自動火災報知器			○		
連絡送水口	産板共		○		
独立煙突		○			
同上煙道	銅板製		○		
同上煙道設備			○		
配管配線ピット	蓋の切開共	○			
二重床の配管、配線用開口	フッパークセフロア等	○			
コンクリートシャフト吊り口		○			
機械室の防音遮音処理		○			
防音設備			○		
保守点検用タラップ、はしご			○	モルタル充てん等	
室内テレビ用吊金物			○		
防火区画貫通部補修			○		
機器・配管取付後の壁、床等の補修			○		
テレビアンテナ	取付共		○		
補修			○		
アルミパネルの穴あけ、補修			○		

区 分	項 目		電 気	機 械	E V	備 考
	名 称	概 要				
工事区分	各種信号用制御盤	停電用、火災用等				○
	三方弁開閉の管上		○			
	各種出入口開閉口	数値取付用挿出し共	○			
	ピット内防水		○			
	動力、照明用電源、接地引込み		○			制御盤一次側 本体から制御盤まで
	"				○	
	コンセント設置	ピット内、機械室内			○	
	インタホン配線	シャフト外			○	
	"	シャフト内			○	
	非常放送用スピーカ				○	
	同上用配線	シャフト外			○	
	"	シャフト内			○	
	高級用タラップ	ピット内			○	
2 章 仮設工事						
<2.2.1> 足場その他	足場を設ける場合は、手すり据置き方式又はすり摺先行専用足場方式とする。また、併せて、足場の外側及び内側（躯体側）の両方に手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置することとし、幅木はメッシュシート、防音シート及び防網等の有無に関わらず設置すること。尚、北・西・東面においては、防音対策を考慮すること。 <b>※東、西、北面に関しては防音シートとすること。</b>					
3 章 防水改修工事						
<3.1.4> 改修工法の種類及び工程	防水改修工法の種類 ____ S4S1 ____ 工法 シーリング改修工法の種類 ____ 充填工法 ____ 工法					
<3.2.5> ルーフドレン回りの処理	改修ドレン ____ 設ける					
<3.2.6> 既存下地の補修及び処置	既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去 ____ 行う					
<3.3.3> 種別及び工程	アスファルト防水層の種別 種別 _____ 施工箇所 _____					
<3.4.3> 種別及び工程	改質アスファルトシート防水層の種別 種別 _____ 施工箇所 _____					

<3.5.3> 種別及び工程	合成高分子系ルーフィングシート防水層の種別 種別 _____ 仕上げ _____ 施工箇所 _____ S1-F2 カラー 屋根、パラペット		
<3.6.3> 種別及び工程	塗膜防水の防水層の種別 種別 _____ 施工箇所 _____ X-2 庇、アゴ 他		
<3.8.2> 材料	といの材質 ・配管用鋼管 _____ ・硬質塩化ビニル管 _____ ルーフドレン 種別 _____ 防水下地、寸法等 _____ <input checked="" type="radio"/> 陸屋根用 <input checked="" type="radio"/> 縦型 <input type="radio"/> 横型 <input checked="" type="radio"/> バルコニー用 _____ ・バルコニー中継用 _____ 耐酸被覆鋼板、ガルバリウム鋼板の製造所 _____ 鋼管製といの防露 施工箇所 _____		
4 章 外壁改修工事			
<4.2.2> 工法別使用材料	ひび割れ部充てん材 種別 _____ 種類 _____ 寸法 _____ 施工箇所 _____ <input checked="" type="radio"/> シーリング材 PU-2 _____ <input checked="" type="radio"/> 可とう性球状樹脂 _____ 外壁隠壁・クラック部 可とう性エポキシ樹脂の製造所、製品名 _____ 欠損部充てん材 種別 _____ 製造所、製品名 _____ 施工箇所 _____ <input checked="" type="radio"/> エポキシ樹脂モルタル _____ <input checked="" type="radio"/> ポリマーセメントモルタル _____ 注入併用工法の注入材料 種別 _____ 製造所、製品名 _____ 施工箇所 _____ <input checked="" type="radio"/> エポキシ樹脂 _____ <input checked="" type="radio"/> ポリマーセメントスラリー _____ タイルの形状、寸法、きじの質及び工法等 施工箇所 _____ 形状・寸法 _____ きじ _____ 色 _____ 工法 _____ 製造所・製品名 _____		
	※施工箇所の下線は、耐凍害性があるものを示す。 試験張り ・行う ・行わない 見本焼き ・行う ・行わない 塗膜はく離材 製造所、製品名 _____		

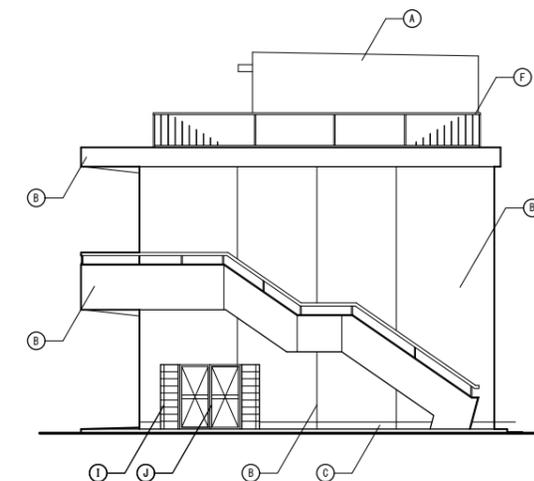
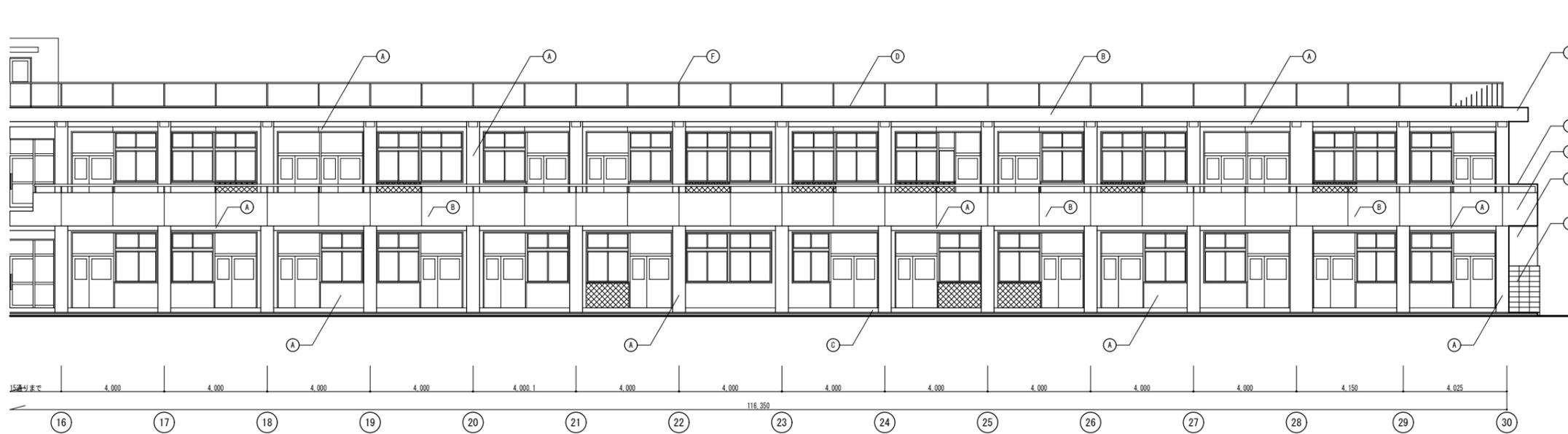
<4.3.4> 樹脂注入工法	仕上げ塗材 種類 _____ 呼び名 _____ 仕上げの形状・工法等 _____ <input checked="" type="radio"/> 薄付け仕上げ塗材 ・外装薄塗材S1 ・可とう形外装薄塗材S1 <input checked="" type="radio"/> 外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E ・外装薄塗材S ・内装薄塗材G ・内装薄塗材H ・内装薄塗材Si ・内装薄塗材E ・内装薄塗材W 仕上げの形状 ・砂壁状 ・平たん状 ・さざ波状 ・着色骨材砂壁状 ・砂壁状じゅらく ・京壁じゅらく 工法 ・吹付け ・ローラー塗 ・こて塗り		
	・厚付け仕上げ塗材 ・外装厚塗材C ・外装厚塗材Si ・外装厚塗材E ・内装厚塗材G ・内装厚塗材H ・内装厚塗材Si ・内装厚塗材E 仕上げの形状 ・平たん状 ・吹出し ・ひき起こし ・かき落とし 工法 ・吹付け ・ローラー塗 ・こて塗り		
	<input checked="" type="radio"/> 複層仕上げ塗材 ・複層塗材OE ・複層塗材Si ・複層塗材E ・複層塗材RE ・可とう形複層塗材E ・防水形複層塗材OE <input checked="" type="radio"/> 防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RE ・防水形複層塗材RS 仕上げの形状 ・ゆず肌状 ・凸凹模様 工法 ・吹付け ・ローラー塗 耐凍害性 ・耐凍害形1種 ・耐凍害形2種 上塗材の種類 樹脂 ・アクリル系 ・シリカ <input checked="" type="radio"/> ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ・ふっ素系 外観 <input checked="" type="radio"/> やあり ・つやなし ・メタリック 触媒 ・溶剤系 ・弱溶剤系 ・水系		
<4.3.4> 樹脂注入工法	ひび割れ部の注入状況の検査方法 ・コア抜き （抜き取り個数 ____ 個 コア抜き取り部補修方法 ____ ）		
<4.4.4> 浮き部改修一般事項	アンカーピンニングの工法種別 ・単独工法 ・単独工法（注入口付） <input checked="" type="radio"/> 注入併用工法（注入口付）		
ひび割れ概算数量（図示に依る）	クラック補修（0.2～1mm） エポキシ樹脂注入工法 _____ m クラック補修（1mm以上） Uカットシール材充填工法 _____ m モルタル欠損部処理 エポキシ樹脂モルタル充填工法 _____ カ所 モルタル浮き部処理 アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 _____ m <sup>2</sup> 外壁のクラック等の調査を行い、監督職員に報告すること。		
5 章 建具改修工事			
<5.1.3> 改修工法	種別 ・かぶせ工法 ・撤去工法（ ・はつりによる撤去 ・油圧工具等による撤去）		
<5.2.2> 性能及び構造	外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 性能等級 _____ 耐風圧性 _____ 気密性 _____ 水密性 _____ 枠の見込み寸法(mm) _____		
<5.2.4> 形状及び仕上げ	表面処理 建具 外部に面する建具 <input checked="" type="radio"/> B-1種 <input checked="" type="radio"/> B-2種 （ ・ブロンズ系 ・ブラス系 ・ステンカラー） 屋内の建具 <input checked="" type="radio"/> C-1種 <input checked="" type="radio"/> C-2種 （ ・ブロンズ系 ・ブラス系 ・ステンカラー）		





凡例	
A	モルタル網毛引きリシン吹付の上防水部補修塗材
B	浮き部分除去(浮き)・高圧洗浄の上・防水部補修塗材
C	モルタル網毛引き目地切リシン吹付の上防水部補修塗材
D	浮き部分除去(浮き)・高圧洗浄の上・防水部補修塗材
E	巾木・モルタル網毛引き
F	高圧洗浄の上・磨れ部・脆弱部除去・浮き部分補修
G	パラペット天端：アルミ製押え金物 新設
H	廊下・階段手摺：既設スチール製角パイプケレンの上DP
I	屋上手摺：既設スチール製パイプケレンの上DP
J	縦樋：既設縦樋の上・硬質塩化ビニルパイプφ100 DP
K	モルタル塗金こて
L	高圧洗浄の上・磨れ部・脆弱部除去・浮き部分補修
M	CBT-120化驗機み(H=1,800) 高圧洗浄
N	扉：アングル枠ネットフェンスケレンの上DP
O	モルタル塗高圧洗浄の上・磨れ部・脆弱部除去・浮き部分補修
P	既設下地処理の上ウレタン塗膜防水複合工法(X-2)
Q	枠付鉄骨ブレース：溶融亜鉛メッキの上DP
R	
S	
T	
U	
V	
W	
X	
Y	
Z	

扉新設部分を示す  
 廊下手摺新設部分を示す  
 (手摺：スチール製角パイプ DP、支柱：スチール32角φ2,000 DP)

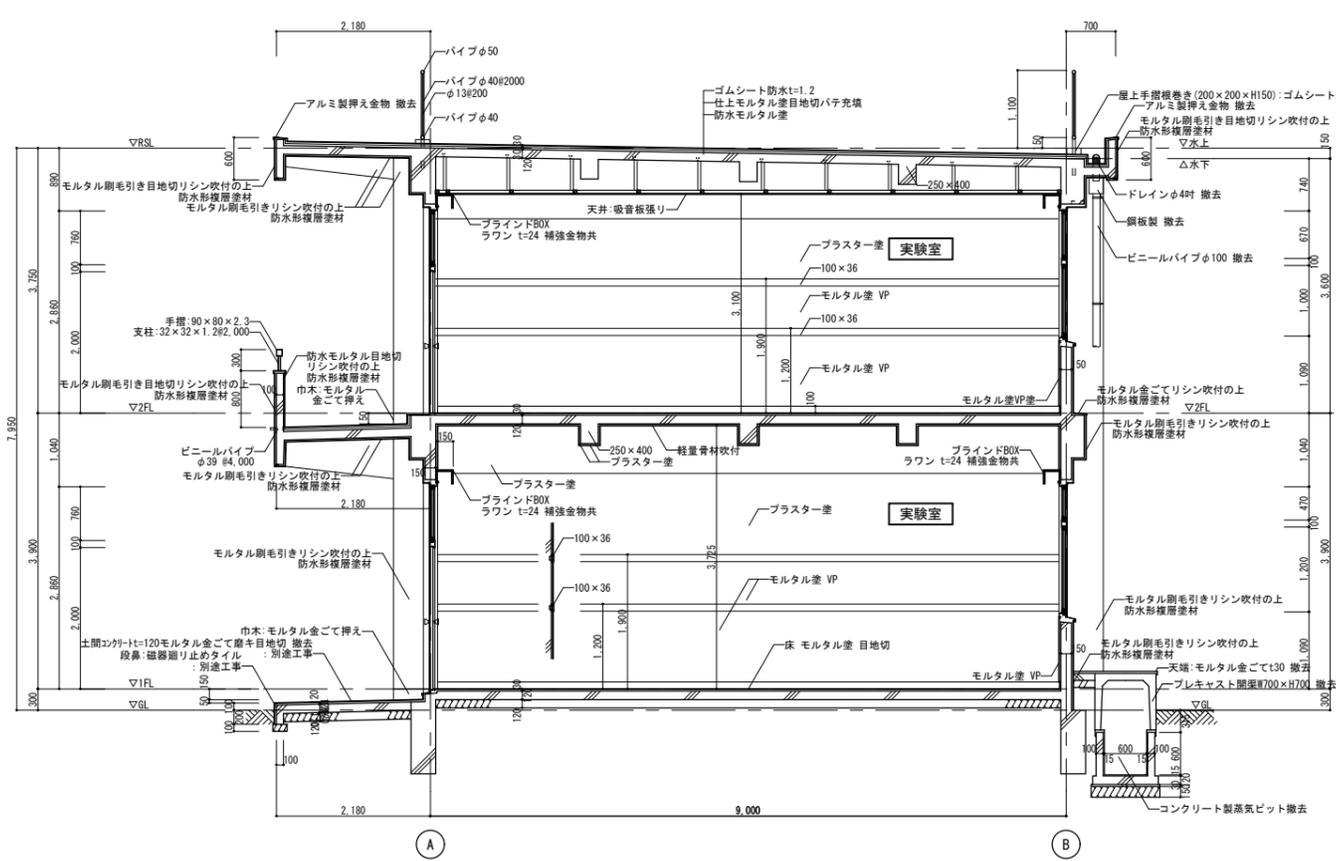


改修後 南側立面図 1/100

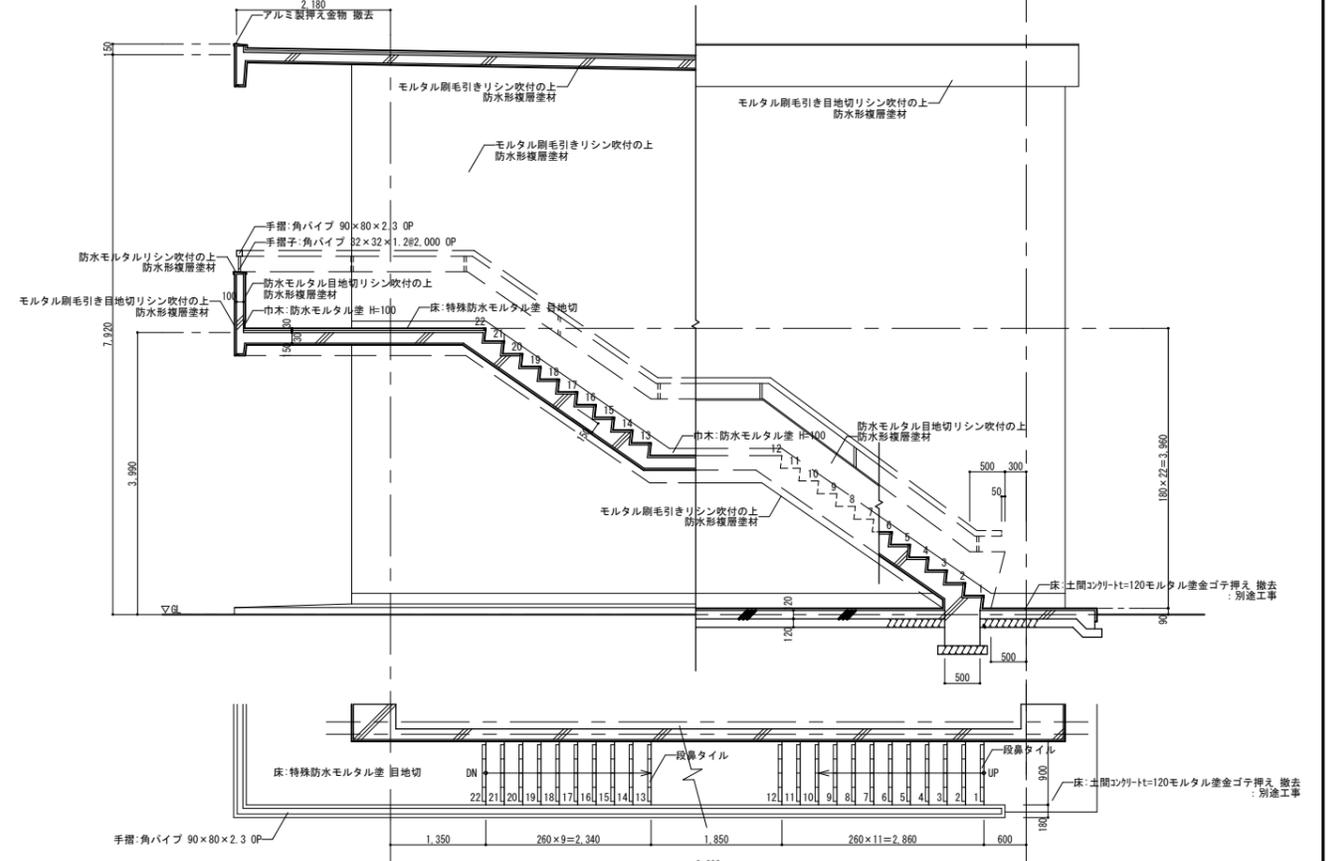
改修後 東側立面図 1/100

記 事	業務名	鈴鹿工業高等専門学校					工事名称	鈴鹿工業高等専門学校改修その他工事	日付	平成25年7月	総数	16/77
		鈴鹿工業高等専門学校改修設計等業務					事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	
		株式会社 練企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 大綱 和行					検図	担当				
							縮尺	1/100	図面名称	改修後 南・東側立面図		
									番号	A-10		

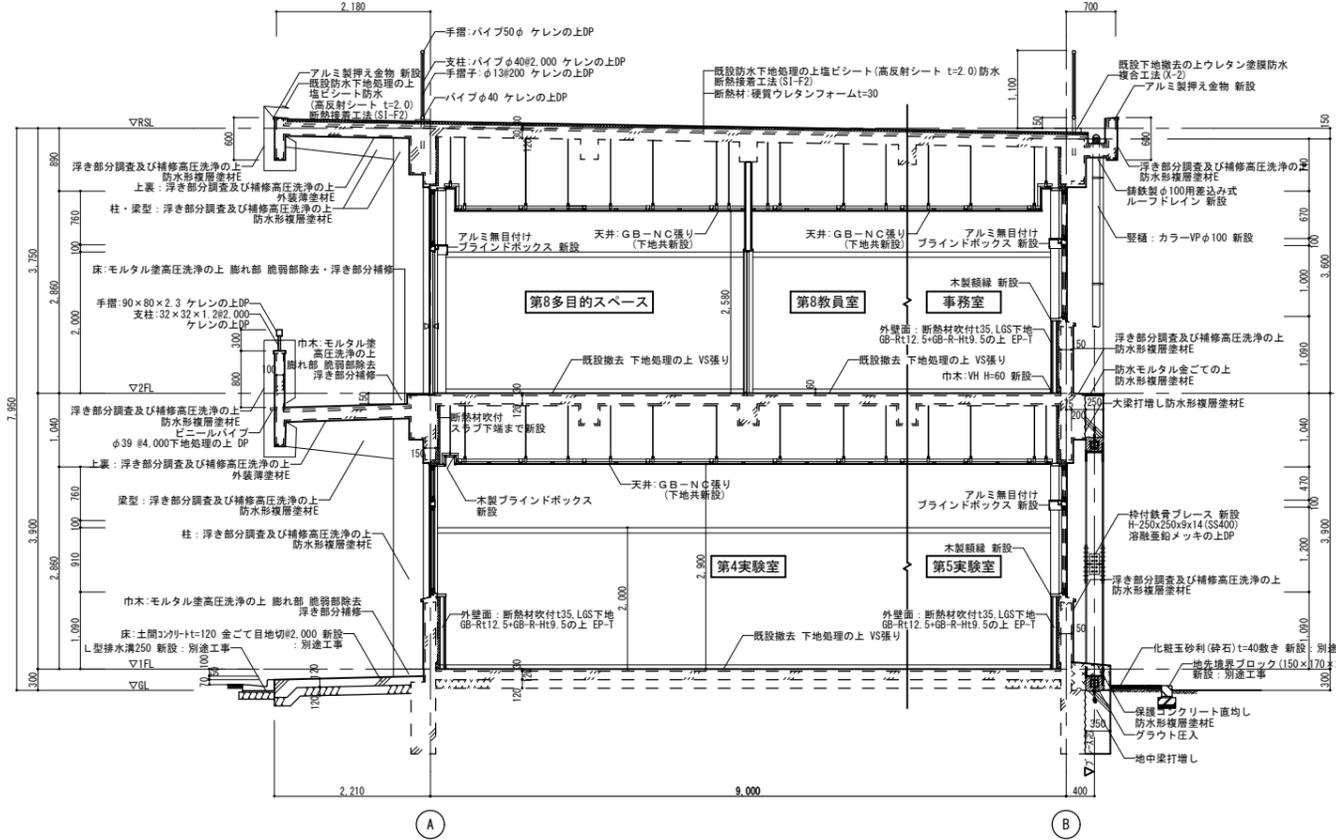
※A3版の場合は50%縮尺とする



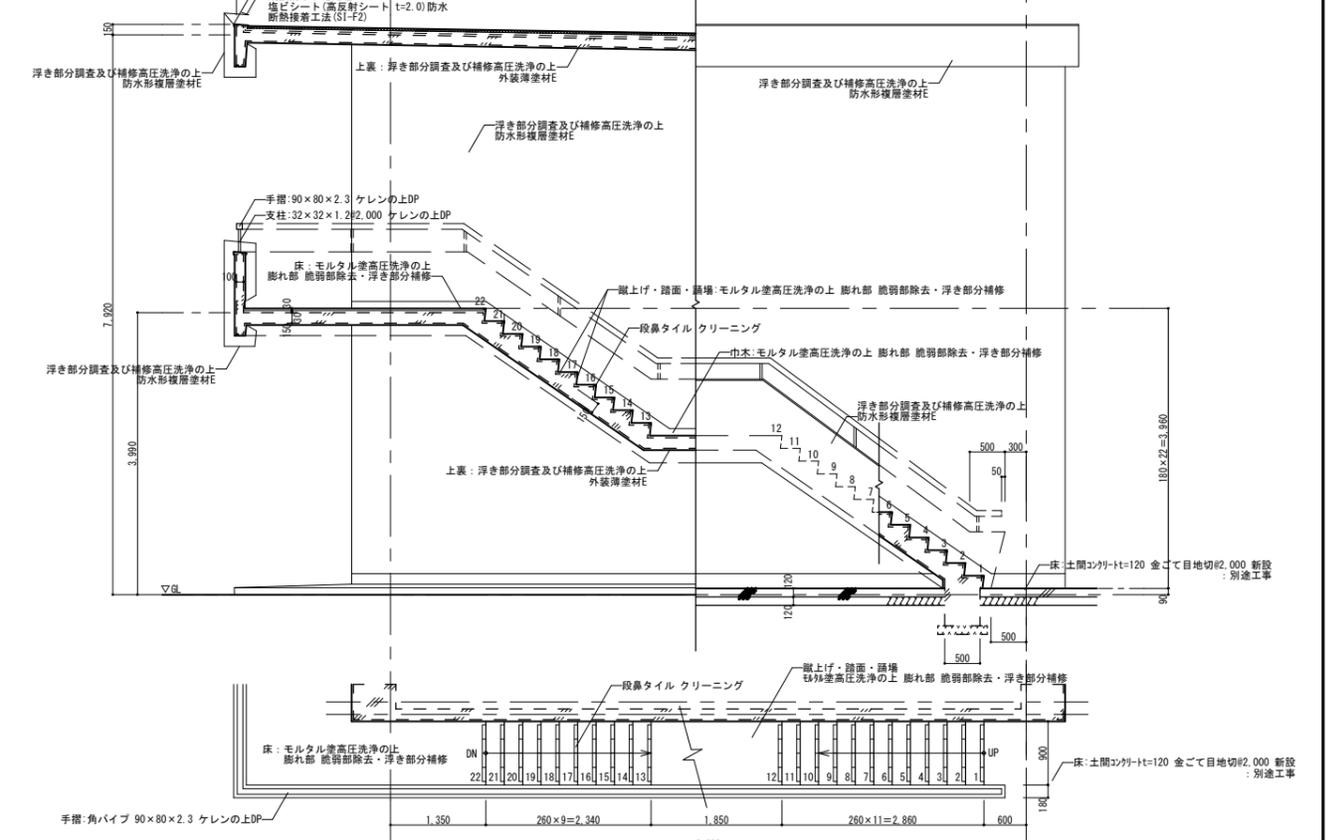
改修前 矩計図 1/50



改修前 屋外階段詳細図 1/50



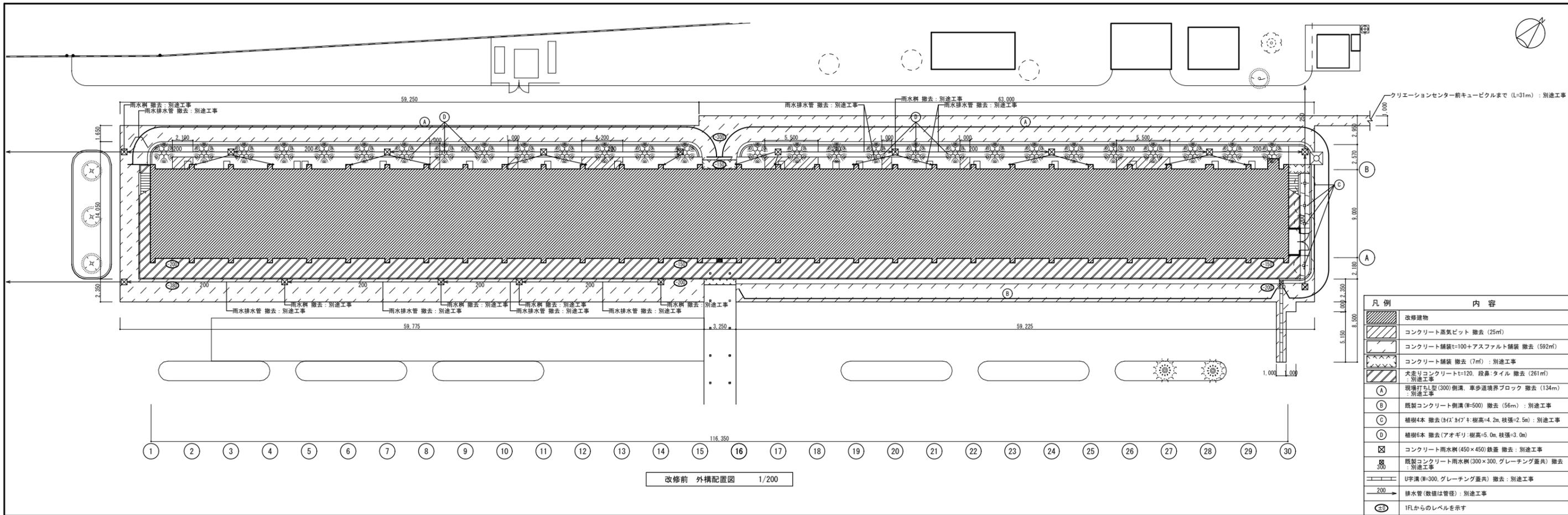
改修後 矩計図 1/50



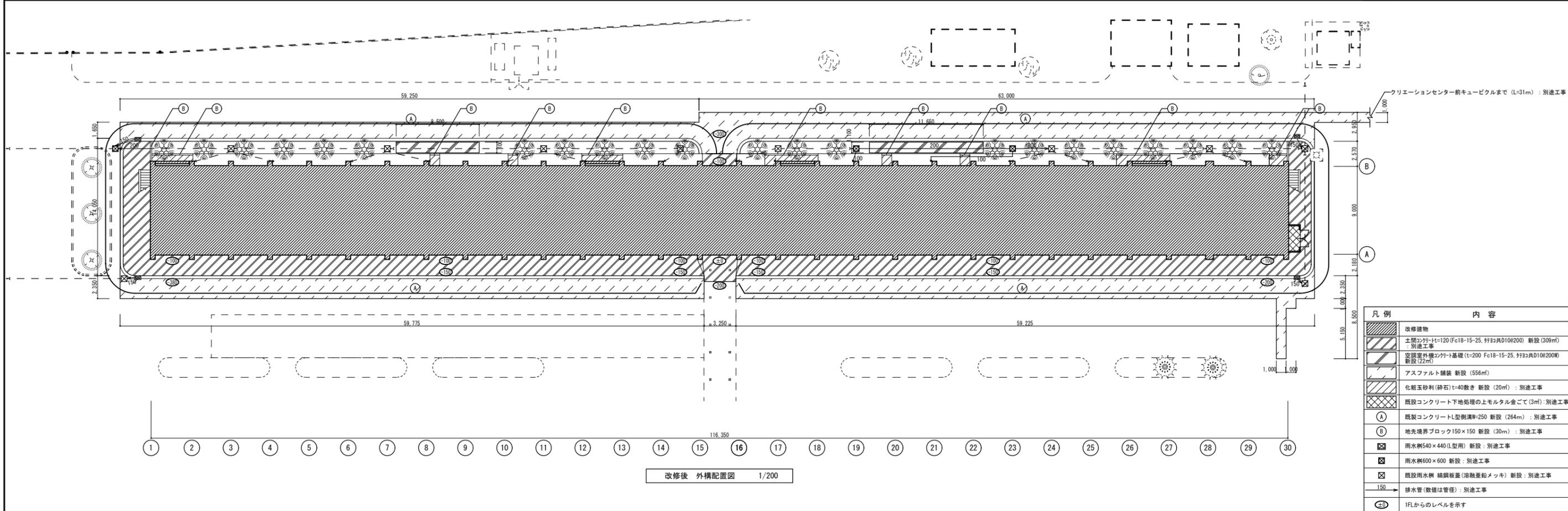
改修後 屋外階段詳細図 1/50

記 事	業務名 鈴鹿工業高専機械工学科棟改修設計等業務		工務名称 鈴鹿工業高等専門学校		日付 平成25年7月	総数 19/77
	株式会社 緑企図設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 大綱 和行		事務部長 総務課長 課長補佐 施設係長 担当		縮尺 1/50	番号 A-13
		図面名称 改修前後 矩計図・屋外階段詳細図		総数 A-13		

※A3版の場合は50%縮尺とする



凡例	内容
	改修建物
	コンクリート高気ビット 撤去 (25㎡)
	コンクリート舗装t=100+アスファルト舗装 撤去 (592㎡)
	コンクリート舗装 撤去 (7㎡) : 別途工事
	犬走りコンクリートt=120、段鼻・タイル 撤去 (261㎡) : 別途工事
(A)	現場打ちL型(300)側溝、車歩道境界ブロック 撤去 (134㎡) : 別途工事
(B)	既設コンクリート側溝(W=500) 撤去 (56㎡) : 別途工事
(C)	植樹4本 撤去(ヤマブキ:樹高=4.2m、枝張=2.5m) : 別途工事
(D)	植樹6本 撤去(アオギリ:樹高=5.0m、枝張=3.0m)
	コンクリート雨水樹(450×450) 鉄蓋 撤去 : 別途工事
	既設コンクリート雨水樹(300×300、グレーチング蓋共) 撤去 : 別途工事
	U字溝(W=300、グレーチング蓋共) 撤去 : 別途工事
	排水管(数値は管径) : 別途工事
	1FLからのレベルを示す



凡例	内容
	改修建物
	土間コンクリートt=120(Fc18-15-25、F33共D10#200) 新設 (309㎡) : 別途工事
	空調室外機コンクリート基礎(t=200 Fc18-15-25、F33共D10#200) 新設 (22㎡)
	アスファルト舗装 新設 (556㎡)
	化粧玉砂利(砕石)t=40敷き 新設 (20㎡) : 別途工事
	既設コンクリート下地処理の上モルタル金ごて(3㎡) : 別途工事
(A)	既設コンクリートL型側溝W=250 新設 (264㎡) : 別途工事
(B)	地先境界ブロック150×150 新設 (30㎡) : 別途工事
	雨水樹540×440(L型用) 新設 : 別途工事
	雨水樹600×600 新設 : 別途工事
	既設雨水樹 補網板蓋(溶融亜鉛メッキ) 新設 : 別途工事
	排水管(数値は管径) : 別途工事
	1FLからのレベルを示す

記 事	業務名	鈴鹿工業高等専門学校 鈴鹿工業高等専門学校改修設計等業務				鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	鈴鹿工業高等専門学校改修その他工事	日付	平成25年7月	総数	58/77
	株式会社 緑企図設計	管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行	検図	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	図面名称	改修前後 外構配置図	縮尺	1/200	番号	A-52

※A3版の場合は50%縮尺とする